



2025年11月27日

各 位

株式会社クシム
代表取締役 田原 弘貴
(証券コード：2345 東証スタンダード市場)
(お問合せ先) 取締役 田中 遼
電話 03-6427-7380 (代表)

Kushim Labsの創設及びINTMAX との提携について

当社は、ブロックチェーン分野における基盤技術の研究開発を目的とした新たな組織として「Kushim Labs」を創設するとともに、Ryodan Systems AG が開発するレイヤー2プロトコル「INTMAX」との提携を開始しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1 Kushim Labsの創設について

当社は、ブロックチェーン分野における基盤技術の研究開発を目的とした新組織として「Kushim Labs (クシムラボ)」を創設いたしました。

Kushim Labsでは、暗号技術、プライバシー保護、分散型インフラ、セキュリティなど、Web3時代に不可欠となる技術領域において、外部パートナーとの連携を通じた研究開発を推進してまいります。

同Labsの所長には、暗号学及びブロックチェーンシステムに関する豊富な知見を有し、国内外の複数プロジェクトを主導してきた船津圭佑氏が就任いたします。

2 INTMAXとの提携について

(1) INTMAXの概要

当社は、Ryodan Systems AGが開発するレイヤー2プロトコル「INTMAX」との提携を開始いたしました。

INTMAXは、Ethereum上で動作するステートレス型のゼロ知識ロールアップ技術を採用しており、取引履歴や残高情報をチェーン上に保持せずに検証可能とする独自の構造を持つ

技術です。この特性により、利用者や企業が保有する機微情報をオンチェーンに残さず、プライバシーを確保したまま高速な取引処理を行うことが可能となります。

（２）提携の背景と目的

近年、日本国内において企業・行政向けのブロックチェーン活用が進む一方、個人情報や取引情報の取り扱い、DID（分散型ID）におけるプライバシー確保など、社会実装に向けた課題が指摘されています。特に国内では、個人情報保護法や関連ガイドラインに基づき、データ最小化や秘匿性が重要な要件となっています。INTMAXが採用するステートレス構造及びゼロ知識証明技術は、こうした要請を満たす有力な基盤技術として注目されています。

当社及びKushim Labsは、INTMAXの技術支援を受けながら、企業向けブロックチェーン基盤の開発支援、DID・デジタル証明書領域での研究、産業領域における秘匿化データ連携、サプライチェーンやRWA（Real World Asset）領域の実証実験など、エンタープライズ領域を中心とした導入支援を進めてまいります。

【Kushim Labs所長 船津圭佑 コメント】



Kushim Labs ではブロックチェーン及び関連する先端技術を追求していきます。

INTMAX をはじめとする国内外の優れた技術と、日本企業が直面する実務上の課題とをつなぎ、決済・プライバシー保護・サプライチェーン・RWA などの分野で多くのお客様が安心して利用可能な「安全に使える分散型インフラ」のモデルケースをつくっていきます。

ブロックチェーンの社会実装を進めるうえで、プライバシー保護とコンプライアンスを両立した基盤技術は不可欠であり、INTMAX が有するステートレス構造やゼロ知識証明の知見は、その重要な選択肢の一つだと考えています。

研究と実証、そして事業導入支援を通じて、日本発のWeb3エコシステムの発展に貢献してまいります。

ご興味を持たれた方はぜひお話をください。Kushim Labsで皆様と一緒に新しい世界を切り開いていけることを楽しみにしています。

船津 圭佑プロフィール

<経歴>

2014年 東京大学大学院 新領域創成科学科 修了

2019年-2022年 Fintertech株式会社

2022年-2023年 株式会社HashHub

2023年-2025年 チューリングラム株式会社 Turingum Labs所長

2025年 株式会社クシム参画

【INTMAXについて】

INTMAXは、Ryodan Systems AGが開発するEthereum上のステートレスzkRollup技術を基盤とするレイヤー2プロトコルです。プライバシー保護とスケーラビリティを両立し、決済・ID・IoT・RWAなど幅広い利用が期待されています。

公式HP：<https://intmax.io>

【株式会社クシムについて】

株式会社クシムは、デジタル資産領域に関する研究開発及び投資活動を行う企業です。ブロックチェーン基盤技術の研究開発を通じ、日本のWeb3産業の発展に貢献することを目指しています。

以 上